

救命 2009 再試
試験問題番号 1

以下の中で心停止の波形でないものはどれか。

- 1 心室細動
- 2 無脈性心室頻拍
- 3 心静止
- 4 発作性上室性頻拍
- 5 無脈性電気活動

試験問題番号 2

以下の中で心停止の波形でないものはどれか。

- a 心室細動
- b 無脈性心室頻拍
- c 無脈性電気活動
- d 発作性上室性頻拍
- e III度房室ブロック

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

試験問題番号 3

院外心肺停止に関する文章で間違っているのはどれか。

- a 救急隊が扱った心肺停止は日本では1年間に10万件に及ぶ。
- b 心臓突然死は急激な心筋虚血によって招かれた心停止で症状が生じて1時間以内の死亡をいう。
- c ウツタイン様式は1990年に提唱された。
- d ウツタイン様式は院内停止の記録集計を標準化したフォーマットである。
- e 心原性心停止は非心原生心停止に比較して原因の特定が簡単である。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

試験問題番号 4

心肺蘇生に関する文章で間違っているのはどれか。

- 1 救命の連鎖に二次救命処置は含まれる。
- 2 救命の連鎖に迅速な除細動は含まれる。
- 3 一次救命処置のアルゴリズムでは胸骨圧迫と人工呼吸の比率は15:2である。
- 4 一次救命処置のアルゴリズムでは脈があり、呼吸がない時は人工呼吸を約10回/分で実施する。
- 5 胸骨圧迫は100回/分で実施して、圧迫解除は胸郭がしっかり戻るまで待つ。

試験問題番号 5

心肺蘇生に関する文章で正しいのはどれか。

- a 救命の連鎖に二次救命処置は含まない。
- b 一次救命処置のアルゴリズムでは胸骨圧迫と人工呼吸の比率は30:2である。
- c 一次救命処置のアルゴリズムでは脈があり、呼吸がない時は人工呼吸を10回/分で実施する。
- d 一次救命処置では患者が動き出しても胸骨圧迫と人工呼吸はしばらく続ける。
- e 胸骨圧迫は100回/分で強く早く押すことが大切で、圧迫解除を胸郭がしっかり戻るまで待つ必要はない。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

試験問題番号 6

二次救命救急処置(ALS)に含まれないものはどれか。

- 1 低体温療法
- 2 原因検索
- 3 気管挿管などの高度な気道確保
- 4 静脈確保と薬剤投与
- 5 AEDによる除細動

試験問題番号 7

心肺蘇生時の人工呼吸で間違っているのはどれか。

- 1 人工呼吸は胸が上がるのが見て分かる程度の吹き込みで行う。
- 2 人工呼吸の1回換気量は6~7ml/kg(体重)である。
- 3 吹き込みは1分間に10回程度である。
- 4 循環のある小児・乳児に対して人工呼吸のみをおこなうときは1分間に12~20回を目安とする。
- 5 気管挿管している患者でも可能なら胸骨圧迫と人工呼吸の比率は30:2が望ましい。

試験問題番号 8

心肺蘇生時に使用される治療の文章で間違っているのはどれか。

- 1 二次救命処置の中で最も有効な治療は心室細動に対する除細動である。
- 2 心肺蘇生により心拍再開した心室細動や無脈性心室頻拍症例に対する軽度低体温療法は神経学的予後改善に寄与する。
- 3 心停止症例に対するバソプレッシンを投与は40単位3回である。
- 4 心停止の患者にはアドレナリン1mgを3~4分毎に使用する。
- 5 欧米ではアミオダロンは電氣的除細動が無効であった症例に対して初回300mgを静脈投与して追加時150mgを静脈投与する。